

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校
2023年度 学校関係者評価委員会 議事録

日 時 2023年5月25日（木） 15:00～17:00

会 場 新東京歯科技工士学校／新東京歯科衛生士学校
東京都大田区大森北1-18-2 03-3763-2200
※オンライン開催（ZOOMミーティング）

参加者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	渡部 みゆき	医療法人社団正翔会 横須賀歯科医院	マネージャー
保護者代表	横山 祐美子	歯科衛生士科Ⅱ部 在校生の保護者	
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	校長
地域代表	中島 穰	公益社団法人 東京都大田区大森歯科医師会	会長
業界関係者	富田 基子	公益社団法人 東京都歯科衛生士会	顧問

【学園・学校関係出席者】

中村 道雄 学校法人東京滋慶学園 理事長
小川 昭久 学校法人 東京滋慶学園 理事
福原 達郎 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 学校長
三觜 雅子 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 副学校長
関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長
今井 リカ 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 事務局長
植田 慎司 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 事務部長
富野 浩子 新東京歯科技工士学校 学科長
大原 良子 新東京歯科衛生士学校 学科長
西村 充剛 新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校 キャリアセンター長

議 題 <会議の概要>

(進行：事務部長 植田)

1. 開会挨拶
2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
3. 本委員会の主旨説明
4. 2022年度の自己評価項目と評価内容の説明
5. 2023年度の重点目標と説明
6. 質疑応答・意見交換
7. 閉会挨拶

1. 開会挨拶（学校長 福原）

2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介（教務部長 植田）

※2023年度委員会名簿を基に、オンライン上にてお一人ずつ自己紹介

3. 本委員会の主旨説明（評議員 小川）

2013年から始まった職業実践専門課程が専門学校に関する一定の質を担保している学校に業界の方、保護者などの利害関係者から評価されることで称号を授与することを目的とする。この課程を取得している専門学校は全体の約4割。滋慶学園グループは約9割が認可されている。まず学校なりに自己評価する。それに対し評価や提言をいただき、翌年の学校教育に反映させる。そのため学園でもこの委員会は重要だと位置付けている。

毎年繰り返し学校運営に取り入れていくものとなる為、学校の自己点検が適切かどうか、評価をしていただく。

4. 2022年度の自己点検・自己評価 評価内容の説明（副運営本部長 関口）

委員の皆様には昨年度の自己点検評価の2次評価をしていただく。

学内自己点検自己評価委員会で実施した内容について、委員の皆様にお送りしている。

- ・自己点検、自己評価表(1次評価) 65項目の小項目に対して評価(5段階評価)
- ・学校関係者評価表(2次評価) 全11の大項目に対して評価(3段階評価)

評価点とともに、各委員からのご意見をご記入いただきご返送いただく。

委員の皆様からの平均点数とご意見、議事録を本校HPにて情報公開する。

5. 2022年度の自己評価項目と評価内容の説明(事務局長：今井)

※以下、特段の解説を行った箇所のみ記載

<教育理念・目的・育成人材像>

滋慶学園グループの建学の理念「実学教育、人間教育、国際教育」

<学校運営>

毎年、事業計画を基に運営されている。

<教育活動>

学生便覧にて、養成目的・教育目標・カリキュラム・学年目標を示している。

学年毎に到達目標を設定している。

<教育成果>

国家資格合格率は、全国平均93.0%に対して、新東京合格率97.5%（合格者153名／受験者157名）

100%合格を目指していたが達成ならず。次年度に向け更に対策をする。

<就職率>

就職希望者の就職率は100%となっている。

<学生支援>

- ・退学者数：13名 進級率93.3%

設定していた目標は達成。退学者が少ない。休学者が退学せずに復学している事例が多い。

- ・各担任が、教育フローシートを用いて毎月結果報告をし、学科内で共有をしている。

- ・ 学生が目標をかなえられるように教務だけでなく、各部署、保護者も含めてサポートをしてる。
その他支援として、慶生会クリニック、SSC の活用をしている。年々メンタル不安の相談が増えている。
- ・ 防災について、年に1回の訓練、マニュアルの設定、安否確認システムにて実施している

< 学生の募集と受け入れ >

高等学校・保護者向けのパンフレット作製している。オープンキャンパス参加時に活用している。
仕事内容、教育内容、就職先、学費についてなど幅広い情報を発信している。

< 学校の財務 >

HP に公開情報として掲載している。

定員充足率 2022 年度：108.8% 2023 年度：109.4%

< 社会貢献 >

大田区と災害協定を締結している。

< 国際交流 >

2022 年度に関してはコロナの関係で海外研修は実施できていないが、海外の方の文化の違い等を知る為、スウェーデンの歯科衛生士からのオンライン講義を実施。

学生の関心を高めることができた。

6. 質疑応答・意見交換

(森委員)

①退学者について 同じ滋慶学園グループ校への転校等ほどの程度か。

→ (今井) 転校制度については進路変更委員会が学園で設置されている。進路変更アドバイザーが各校におり、即退学ではなく他校に目指したい職種がないかアナウンスしている。転校後の状況も報告共有を行っている。

②大規模災害 学生の帰宅困難時、寝泊りができるのか。

→ (小川) 対策本部、東日本大震災 3 日分の非常食を全校設置。避難図が全てのフロアに設置している。
安否確認システムによりどこで被災しているのかが分かる状況となっている。

(中島委員)

国家試験合格率も高くとても良い。

(横山委員)

興味を引き出すような授業の工夫を教えて欲しい、また国際教育は今年度どのようにしていくか。

→ (大原) 取り組みは学年毎で変えている。1 年生には動画で授業内容を事前に分かるようにしている。
2 年生は早い時期から臨床実習に向けた対策、3 年生においては中間部夜間部共に講師と国試対策を強化する。
国際教育は、今年度海外にいくかどうかは検討している。社会貢献についても地域事業に積極的に参加したい。

(富田委員)

国家試験の結果はとても良い。100%合格というのはとても大変なことである。国家試験合格が第一目的になってしまうと、それをクリアしたら終わってしまうので、その後の歯科衛生士を踏まえてもっと先の歯科衛生士として職務に必要な学びを教えていただけるととても良い。

7. 閉会挨拶

(三觜副学校長)

本日の意見を反映させ学校運営を行っていく。

(中村理事長)

本校は先陣を切り皆様のご期待に応えられるような学校を目指していく。

以上

評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

多様性に対応していく教育と業界が求める職業人教育のギャップをうめるべく、キャリア教育の観点で、歯科衛生士という職種のやりがいや、社会的な意義を感じられる教育カリキュラムに更に重点をおいて職業人教育としての人材育成を図る。

重点課題は以下の通り。

- ① 専門職として必要な知識・技術・考え方を学ぶ産学連携教育の深化を図る。
 - ② 自己の課題発見・課題解決力を身につけるためのキャリア教育プログラムの見直しを図る。
 - ③ 現場コミュニケーション力の向上を図る実習教育プログラムの強化を実施する。
 - ④ トップ層教育の推進を行うことにより、モチベーションの向上を図る。
-